

米CPIを受けて高まる投資家のリスクテイク意欲



シニア・ストラテジスト 石黒英之

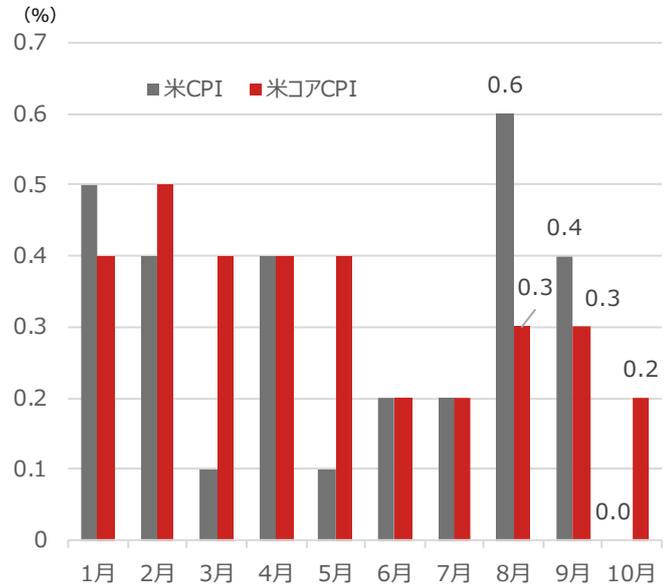
ポイント① 米CPIはインフレ圧力の緩和を示唆

米労働省が14日に発表した10月の米CPIの上昇率は、前年同月比3.2%と9月の同3.7%から鈍化しました。変動の大きいエネルギー、食品を除いた米コアCPIの上昇率も同4.0%となり9月の同4.1%から伸びが減速し、基調的なインフレ動向を示す前月比ベースの伸びは0.2%と市場予想（同0.3%）を下回りました（右上図）。米コアCPIの前月比の伸びは8月、9月と0.3%となっていたこともあり、市場の一部ではインフレ再加速を懸念する向きもありました。10月からの医療保険料の算出方法の変更で、市場では米コアCPIの伸びが高止まりすると観測もありましたが、今回の内容は米国のインフレ圧力が着実に和らいでいることを示したといえます。

ポイント② 投資家のリスクテイク意欲高まる

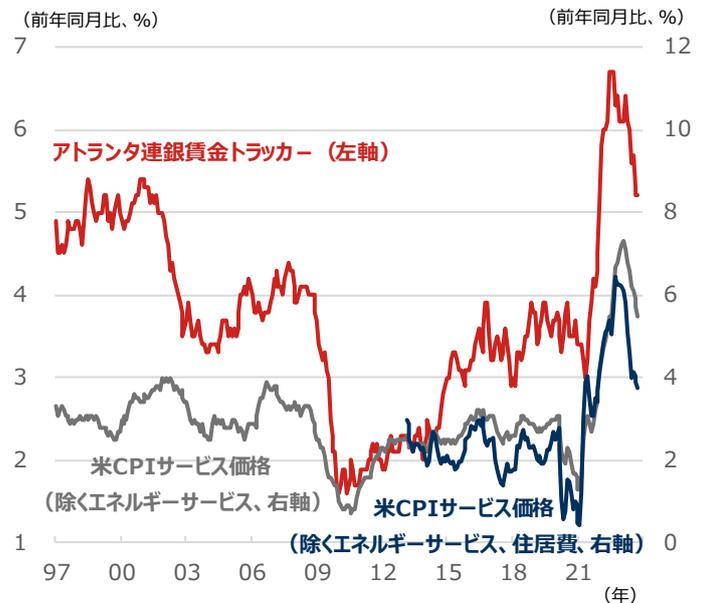
米国では賃金の上昇圧力が強まっていたことが、粘着性の強いサービス価格のインフレにつながっていました。しかしここに来て、労働需給のひっ迫度合いが緩和されてきたこともあり、賃金インフレの伸び鈍化とともに、サービス価格のインフレ圧力も弱まってきました（右下図）。FRB（米連邦準備制度理事会）がインフレ動向を見る上で重視するエネルギーサービス、住居費を除いた米CPIサービス価格の伸びも21年12月以来の水準にまで鈍化しており、米国ではインフレ鎮静化に向けた動きが継続しています。今回のCPIを受けて市場は債券高・株高で反応し、ハイテク株主体のNASDAQ100は7月につけた年初来高値（15,841ポイント）更新まであと約30ポイントとなりました。米国株の重荷となっていた米金利高への懸念が大きく後退したことで、投資家のリスクテイク意欲は回復しつつあり、米国株の年末高シナリオの実現可能性が高まってきたといえます。

23年の米CPI（消費者物価指数）と米コアCPIの前月比



期間：2023年1月～2023年10月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

アトランタ連銀賃金トラッカーと米CPIサービス価格



期間：米CPIサービス価格（除くエネルギーサービス、住居費） 2013年2月～2023年10月、月次
米CPIサービス価格（除くエネルギーサービス） 1997年1月～2023年10月、月次
アトランタ連銀賃金トラッカー 1997年1月～2023年10月、月次
・米CPIサービス価格（除くエネルギーサービス、住居費）はBloomberg集計値を用いた
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一的見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。